

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800226		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ中道		
所在地	神戸市垂水区中道6-1-8		
自己評価作成日	令和 2年12月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ・ナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和3年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人全体の理念である「自分の親に受けさせたい介護」「自分自身が受けたいと思える介護」「子供たちに継承してもらえる施設」という3つの理念を、日々意識しながら職務にあたるよう、取り組んでいる。
 日々医療やご家族様とも連携をとって、ご本人、ご家族ともに安心して生活して頂ける支援を心がけている。新型コロナウイルス感染予防の為、今期はご家族様の面会やボランティアなどの訪問も中止し楽しい行事がほとんどできなかった。が、入居者様の下肢筋力低下予防に努め日常的に散歩をしたり、体操を取り入れたレクリエーションを積極的に行ったりした。
 また、職員にとっても働きやすい環境が作れるよう、研修やミーティングなども定期的かつ必要時に行い、常に改善点を検討しながら職務に当たっている。

コロナ禍で感染拡大予防の為、ご家族との面会制限や外部との接触を、必要最低限度にした為、イベントなども思う様に出来ない状況であった。しかし、体力低下にならないよう、体操を強化したり、お散歩やドライブなど季節を感じてもらえるよう可能な限り連れ出したり、施設内で喫茶店やクリスマス会、食事リレーション等を行い、気分転換をはかっている。家族様との交流はお手紙の送付回数を増やしたり、動画や電話など工夫をし、以前より更に生活の様子がわかりやすくなったと、喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関： 姫路市介護サービス第三者評価機構

自己	第三者	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識しながら介助方法を研修やMTGなどで話し合っている。	本部の理念は①自分が受けたいと思える介護サービス②自分の親に受けさせたいと思える介護サービス③今の子供達に自信を持って継承してもらえる施設でホームにも独自の運営方針があり(やる気・元気・なにかみち)とし日々の介護に当たっている。理念は玄関に掲示され、職員は朝礼時に確認している。又ネームの裏に理念を印刷している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、ご近所での催し物も中止になったり、以前のような交流は出来ていません。散歩時に地域の方と挨拶をしたりお花を頂いたりしている。自治会長様とは時々交流している。	コロナ禍で制約があり、地域のもちつきやフリーマーケット、保育園との交流も中止となっている。コロナ規制が解除になれば、地域との交流も再会していきたいと考えている。又自治会には参加していないが自治会長との接点で情報を得て参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様をお連れして近隣の散歩をする際職員が率先して挨拶を行い近隣の方とのコミュニケーションを図るよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為直接会議が出来ない為書面・電話・メールでご意見・要望をお聞きしている。個別にご意見をいただくことで、普段会議にご参加出来ない方からの直接のご意見をよく聞く事が出来た。	通常時には家族の方が議長を務めて進行し、その他自治会長、家族(5名位参加)・あんしんすこやかセンターの方々の参加がある。コロナ禍の現在会議形式は出来ていないが、書面・メール・電話で情報を頂き議事録を作成し広報紙と共に全家族へ送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回、地域包括支援センターより参加して頂いたが新型コロナウイルスの影響で直接参加出来ないがホームの運営についてのご意見や提案など頂いている。	問題があれば市の介護指導課と相談し、指導を頂いている。平素は地域包括支援センターや本部に相談し対応している。又垂水区内のグループホーム連絡会にも出席し、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を発足しており定期的に研修をしている。日常では閉鎖感を感じないように、玄関先の駐車スペースで日向ぼっこや夕涼みをして頂いたり、裏庭で茶話会などしている。	身体拘束適正化委員会を計画作成者とリーダーで設置し年4回以上開催し、問題が起こる前に対応出来る様に体制を組んでいる。職員全員には年2回研修を組み、理解に努めている。対応は運営推進会議にても、報告し理解を得ている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関： 姫路市介護サービス第三者評価機構

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修を必ず開催して。また、不適切ケアに対しての自己チェック表を毎日行っている。管理者にも報告・相談しやすい環境でいられるよう、個別面談も行っている。	虐待防止に関しても年2回の研修をし、職員全員主旨を十分に理解し、日々の介護に当たっており、日々の終わりに自己チェック表を確認をしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度を受けておられるご入居者様がおられ、理解を深め日々相談しながら支援している。	権利擁護に関しては司法書士の講師により過去に。研修を受けている、今期は動画と資料でミニテストにて検証し職員の理解力を確認している。現在も成年後見制度を利用している方も3名いるとの事です。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に十分にご本人やご家族様と面談をし、できるだけ細かく説明を行っている。契約締結時には契約書はもちろん、他の承諾書など細かく説明し承諾書を取り交わしている。	入所時に重要事項説明書や重度化や看取りに関して本人・家族に十分理解される迄説明し、サインを得ている。又色々な改定時期にも同様に説明し、サインを得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に直接参加が出来ないご家族からもご意見を頂き運営に反映させている。また、意見やご要望などは職員にも周知徹底し、日ごろから連携をとるよう心がけている。	入所時に本人・家族より私の気持ちシートに要望・意向を確認し記録し、日々の介護に反映させている。具体例としてお墓参り・買い物・図書館に等ケアプランにも反映させている。又日々の介護にてきずいた点もシートに記入し、介護に当たっている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、フロアミーティングや個別面談を実施し、意見を聞く機会を設けている。委員会を設定し、必要な行事ややってみたい活動やイベントなど職員の希望や相談が気軽にできるような心がけている。	毎月フロアミーティングとコアミーティングを行っている。全体ミーティングは今期は年2回その他、管理者と職員の個人面談があり、職員よりの要望等が話し合われている。離職者が少ない状況であり、あまり大きな問題は提起されていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員評価制度を設けており、意欲を持って業務にあたれるようインセンティブを提供している。また、評価面談においては、管理者と職員が直接面談し、個人の良い点や改善点を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修は法人内外で参加し、情報を提供している。一度に全員が研修を受けることは困難なため、数回に分けて研修に参加し、検証しながら、スキルアップを目指している。チューター制度も活用している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関： 姫路市介護サービス第三者評価機構

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防のため出来ていない。相談等は電話やメールで連携をとっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約締結前に家族様や各期間からの情報を出来るだけ多く収集することを心がけている。使っているサービスの情報をもらう。ご本人の訴えや表情等を汲み取り、各勤務帯による申し送りをし本人との関係づくりに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結前に行うご家族からのヒアリングおよび面談を通じて関係づくりに努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人やご家族からできるだけ情報をいただき、ご本人にとって適したサービスを行うよう努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が主体となれる支援を心がけ、ご本人の能力に応じて、日常的な家事や得意とされることを活用した役割を持っていただくようにしている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に行事に参加して頂くよう働きかけて来たがコロナ感染症予防の為出来てないが、こまめに連絡を取り、定期的にメールや動画を送っている。またライン電話でお話しもしてもらってる。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご家族の面会は積極的に受け入れていたがコロナ感染症の拡大ため出来てない。	コロナ禍の現在面会制限がありや家族も合えない状況になっている。過去には訪問が自由に出来、歓迎する状況であったが現在は電話やスマホ・ライン等での対応になっている。場所の継続関係は馴染みの場所での散歩・買い物・ドライブがある。	

自己評価および第三者評価結果

まんでん堂グループホームたるみ中道

評価機関： 姫路市介護サービス第三者評価機構

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性や性格を把握し、ご入居者様同士の関係が築けるよう介入している。時にはテーブル席を代えたり、レクリエーションでカラオケやゲームをしコミュニケーションをとっている。			
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去によりご利用が終了した後も、ご家族様にお手紙を出し繋がりをつけている。また、道でお会いした場合は声をかけている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「私の気持ちシート」を作成し、体のことやご要望、家族の気持ち、職員の気持ちを入れながら、本人の思いに寄り添える暮らしを目指している。	入所時の私の気持ちシートへの要望・意向やその後利用者のきずきを担当者が汲み本人の思いに添える様に日々支援に努めている。		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面談において、現在の生活状況や、これまでの生活歴を詳しく聞き取り、馴染みの関係、生活環境等の把握に努めている。またご入居後も生活歴を聞きだせるようご家族やご友人とコミュニケーションを図っている。			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子、体調の変化を観察、記録している。申し送りによって職員間で情報の共有をしている。また、医師、看護師とも情報の共有ができるような連携をしている。			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	予め関係者からの情報を収集し、ケアカンファレンスを開催し、課題とケアのあり方について、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスは、基本的には、半年に1回開催している、介護計画の更新時や本人や家族の意向に変更があった場合には、計画作成・フロアリーダー具体的に計画変更について検討する場合は、計画作成・フロアリーダー・居室担当が中心となり、その他のフロアの介護職員も参加し、チームとなって作成している		
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに日々の様子や気づきを記録し、出勤時に確認するようにしている。様子の変化や気づきは計画作成担当者に報告し、今後のケアの内容を検討するよう、情報の共有を図っている。			

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関： 姫路市介護サービス第三者評価機構

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診で対応が難しい場合の専門科の受診は、ご家族と相談し送迎や付き添いを行っている。個別にご本人に必要な物品があれば、一緒に外出し立替購入をしている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方が、庭で咲いているお花を沢山くださる。近隣の公園での展示物があれば参加していたが、コロナ感染症のため参加出来てない。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、事業所の提携医療機関のほか、これまでのかかりつけ医を利用して頂くことも可能としている。ご本人の希望する医療機関を受診することを前提としている。	入居時、希望確認の際、ほとんどが、協力医療機関をかかりつけ医に変更されている、往診での対応が困難になった場合は専門医療機関への受診や検査・入院など、紹介状等の対応もできている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週1回事業所を訪問し、ご入居者の健康管理、健康チェックを行っている。また、報告、連絡、相談がスムーズにできるように電話連絡およびFAXにて「状態報告シート」を使って連携をとっている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室との情報交換や相談を通して、ご本人の状態の把握に努めている。また、退院前に病院関係者とカンファレンスを行うとともに、それに基づいたミーティングを施設職員間で実施し、スムーズな退院支援を行っている。	入退院時は病院との連携をとり情報交換を書面で行っている。退院前にはカンファレンスに参加し、入院前の状態との変化を確認し、施設に帰宅後よりスムーズに元の生活に戻れるよう努めている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」をもとに事業所としてできることできないことを段階的に説明し、往診医や訪問看護師、ご家族との連携をとりながら、終末期の方向性や選択を支援している。職員や家族に訪問看護よりターミナル研修を行い望む終末期が迎えられるよう取り組んでいる。	かかりつけ医より、見取り対応の必要性が告げられた時、家族・医療者・施設の3者の日程調整をして、具体的な対応等について、説明と話し合いの時間をもち、納得のもとにより良いケアができるよう取り組まれている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、かかりつけ医及び訪問看護に連絡を入れ相談や臨時往診などの対応できる体制ができている。研修も行い、緊急時対応のマニュアルも提示している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関： 姫路市介護サービス第三者評価機構

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時に備えるため、避難訓練を年に2回実施している。その内、1回は日中、もう1回は夜間を想定した訓練を行っている。	訓練実施については、年2回、夜間と昼間を想定した避難訓練を、年2回実施している。コロナウイルス感染対策については、手指消毒と、朝夕の検温、症状チェックを実施している。発症した際の応援対策なども本社が、検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者と職員は家族的な関係でありながらも家族ではないことを自覚し、人生の先輩であることを自覚するよう心がけている。また、言葉の乱れや声かけについても職員同士が指摘し合える環境づくりに努めている。	8月に、まんてん堂本社の研修部門より、ネット配信による「権利擁護」動画を使用して、研修した。修了後には、テストを実施し、理解度を確認されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望やニーズを把握するために、積極的にコミュニケーションを図っている。日常動作であったり一緒に外出する中で、残存能力が引き出せるよう意識して関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションの取れる方は、ご本人の「今どうしたいか」の意向を尊重し、可能な限りご本人のペースに合わせて対応している。コミュニケーションの難しい方は表情や体調によりその日の過ごし方を柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は季節感に合わせたものをご用意くようご家族に依頼している。外出する際、特に女性の入居者様にはおしゃれ着で出かけて頂くよう支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行っている。食べ物にアレルギーがある場合は代替メニューをご用意している。食事レクリエーションで希望のものや季節を感じていただける献立にし、できる限り入居者さま主導になって調理する日を設けている。	食事レクリエーションとして、季節のお鍋や粉もの等、開催前から、献立や好みを考えて、相談し、当日は、鍋奉行や、手順を仕切る楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居面談時の食事アセスメントで、食生活の習慣を把握している。また、食事量、水分量はそのつど記録し、少ない場合は十分な量の摂取を促すようにしている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関： 姫路市介護サービス第三者評価機構

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に口腔ケアを実施している。また個別に必要に応じて歯科往診を実施している。新入居者様にも積極的に歯科往診を勧めている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃の様子を観察した上で、個別の排泄のタイミングと合わせてトイレ誘導を行っている。オムツのメーカーからの研修により、より薄く小さくしていく取り組みを行っている。	排泄チェックにより、定時誘導をされている。夜間は、10時、12時、2時、4時の巡回時に、トイレ誘導や、パット交換等、個別のペースに合わせて、対応ができています。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩するなど運動を出来る限り勧めている。また、人によっては2～3日以上排便がない場合は、かかりつけ医の指示で下剤を使用してコントロールしている。水分不足の場合は、ご本人の好みに合わせて提供しよう努めている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体の状態に合わせて、リフトで浴槽につかれる方が増えた。お湯にゆったりとつかれることで、体が温まり、よりリラックスしていただいている。入浴のタイミングは可能な限り本人に合わせて順番で声かけをしている。	入浴は、基本週2回できている。好みのお風呂剤等を使用することもある。毎日足浴する人もある。入浴したことを忘れて、入っていないという人には、臨機応変に対応している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居面談時の睡眠アセスメントで、習慣を把握し、個々に応じた支援をしている。夜間巡回ですぐに目を覚まされてしまう方は、パットの種類を変え、安眠を妨げずに休んでいただけるよう、対応している。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人別に分けた上で1冊にまとめ、薬の性質についてすぐに確認できるようにしている。また不明な点や飲み込みが困難であれば、提携薬局に気軽に相談が出来る関係にある。形状を変えてくれるなど、柔軟に対応してくれる。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことを理解し、役割を担って頂いている。また個別の趣味を把握し、趣味に取り組んで頂けるような環境を作っている。		

自己評価および第三者評価結果

まんでん堂グループホームたるみ中道

評価機関： 姫路市介護サービス第三者評価機構

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別でお墓参りにお連れしたり、紅葉ドライブや近隣温泉の足湯へお連れした。また、日常的には職員と近隣の公園を散歩したりドライブをしたりしている。時間帯や日時に配慮しながら買い物にもお連れすることがある。ご希望に沿ってできるだけ外出出来るよう心がけている。	気候のいい日はなるべく近くの公園への散歩や、近所を一回り等へ、誘いだせるようにしており、時間が作れる時は玄関先で日光浴をすることもあ。運動不足にならないように、フロア周回の歩行時間をつくったり、階段の上り下り等も、回数を決めて、ケアプランに入れ意識的にできるよう取り組まれている。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物へ出かける場合は基本的には立替払いとしている。ご希望があれば、お金の直接的なやり取りを入居者さまにもしていただけるようにしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける方は毎年、ご利用者からご家族への年賀状を書いていただいている。電話のやり取りについては要望に応じてかけたり取り次いだり支援している。個人携帯を持ちの入居者様で直接家族と連絡されている方もおられる。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝はカーテンを開ける、夜は閉める。天気の良い日は玄関前で全員で日光浴をする。温湿度計を設置し、快適に過ごせるよう空調に配慮する。フロアの壁に折は、ご利用者と一緒に行ったものを貼り付けたり季節に応じて、壁の飾りを変えたり、飾りを置くなどし四季を感じていただける工夫をしている。	週2回(火・土)、掃除専従のスタッフがいて、フロア外の階段や敷地内の庭や共有スペースの掃除を行っている。フロア内の清掃は夜勤者がおこなっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを設置し、リビングの中心から少し離れた所で自由にお過ごし頂けるようになってきている。一人用のくつろげる椅子で過ごされる方もおられる。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、ご家族様の協力にて壁の絵を変えられたり、馴染の家具や仏壇を置かれている。また、温湿度計を設置して、快適な空間作りにも努めている。	週1回午前9時から、シーツ交換時に掃除も行われている。可能な限り入居者様と職員が一緒に清掃を行っている。温湿度計が各部屋に設置されている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内にトイレがない為、トイレや浴室がわかりやすいように表示している。また、キッチン内は自由に出入りして頂けるようにしている。		

基本情報

事業所番号	2890800226
法人名	株ファイブシーズヘルスケア
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ中道
所在地	〒655-0896 神戸市垂水区中道6-1-8 電話078-752-8011

【情報提供票より】(令和2年12月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 26 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 名
職員数	16 名	常勤 13名 非常勤 3 名	常勤換算15.0名

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1・2階部分
------	------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円		
敷 金	360,000		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無	無し
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,420 円		

(4) 利用者の概要(令和3年1月29日現在)

	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.2 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	陵駕さくらクリニック・なかたに歯科クリニック
---------	------------------------

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義や役割がもてるよう地域とのかかわりを増やしていく。	中学生(トライやるウィーク)への働きかけを行い、世代交流が持てる機会をつくる。	以前、中学校へのアプローチはしたが、目標達成できず、今期も目標とし諦めず学校へのアプローチを続ける。まずは実現に向けて、具体的に日時の設定を行っていく。	10ヶ月
2	2	コロナ禍の為家族との交流が困難になり、思うように外出も出来なくなっている。また、ボランティア等の接触も少なくなった。近隣のお散歩など出来ることは、しているが見えないながらも、ストレスが溜まっているように思われる。	感染予防対策をとりながら、出来る事としては個別支援に力を入れる。墓参りや自宅に帰ったり、馴染みの店に行ったりする。	計画作成とリーダーと連携をとり、本人様の希望を聞き、ご家族様のご意見も取り入れて、いつ実施するか決める。	12ヶ月
3					
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。